

子どもの読書活動を充実させるために

「子ども同士で図書を紹介し合う活動」や「様々な分野の図書に触れる活動」



青森市立浪岡北小学校「ペア読書」

このリーフレットには、「青森県子ども読書活動推進計画（第四次）」の「学校等における子どもの読書の機会の充実」の中で、様々な図書に触れる機会を確保する具体的な取組として紹介している、「子ども同士で図書を紹介し合う活動」や「様々な分野の図書に触れる活動」について、県内学校の実践例や参考となる活動例を掲載しています。

学校においては、子どもが生涯にわたって読書に親しみ、読書の幅を広げるため、読書の機会の拡充や図書の紹介、読書経験の共有等の取組を行うことで、様々な図書に触れる機会を確保することが重要です。ぜひ活動例を参考に、新たな読書活動に取り組んでみましょう。

本リーフレット
掲載の活動例

- 読書会
- ペア読書
- ブックトーク
- 書評合戦（ビブリオバトル）
- アニメーション
- 図書委員、子ども司書等の活動
- 一冊の本を「○○賞」として選ぶ活動
- その他の活動例

読書会

数人で集まり、本の感想を話し合う活動です。その場で同じ本を読む、事前に読んでくる、一冊の本を順番に読む等、様々な方法があります。この取組により、本の新たな魅力に気付き、より深い読書につなげることができます。

実践例

「ミニ読書会をしよう」

(令和元年度実践)

実践校／八戸工業大学第二高等学校 第1～3学年

※夏季休業中に希望者が参加する「読書合宿」で実施

1 活動内容

- (1) 短編小説や集団読書テキスト等を用意し、タイトル等を見て第一印象で直感的に心が引かれた作品を一冊選ぶ。同じ本を選んだ者同士でグループを作る。
- (2) 作品をその場で読む。
- (3) 読んだ後、グループで話し合うテーマを決め、ワークシートに自分の意見を書き込む。
- (4) グループ内でワークシートを交換して、自分の意見を書き込む。またはグループのメンバーの発言を自分でメモする。
- (5) 話し合いを通して発見したことや意見が変化したことなどを振り返り、ワークシートに書き込む。

2 活動の成果

- 「読書会」というと難しく考えてしまいがちだが、気軽に取り組むことができた。
- 本をその場で読み、短い時間で実施できるので、話し合いの楽しさを実感することができた。
- 同じ本に興味を引かれたという共通の話題があるので、本を選んだ理由等を話す中で、交流が深まった。
- 短時間で達成感を得やすいため、本を読むのが苦手な生徒でも興味を持って取り組むことができた。



ペア読書

家族や他の学年、クラス等様々な単位で本を読み、感想や意見を交わす活動です。この取組により、相手を意識し、本を共有することにつながることができます。

実践例

「ペア読書 初めて知ったことを知らせよう」 (令和3年度実践)

実践校／青森市立浪岡北小学校 第3学年

1 活動内容

- (1) 本を読んで何かを知ったときのことを思い出す。
読書記録を読み返すなどして思い出す。
- (2) 青森市民図書館の司書から事典の使い方を聞く。
目次や索引の使い方、写真や図などの見方を知る。
- (3) 本を選んで読む。
図鑑、科学読み物などから、おもしろそうだと思う本を選んで読む。
紹介したいことを付せん書き、本にはさむ。
- (4) 友達と伝え合う。
本で知ったことを友達に話す。
友達から聞いて、おどろいたり感心したりしたことをメモする。
【例】「ともだち、人間関係」「仕事、職業」「環境、食べ物」



2 活動の成果

- 自分のお気に入りの本を紹介するので、学習意欲をもって取り組めた。
- 一対一で紹介したので、聞き手の反応を見ながら紹介でき、聞いてもらうことで自己有用感が増した。
- 自分が選ばない本を紹介してもらうことで、読書の世界が広がった。



ブックトーク

相手に本への興味が湧くような工夫を凝らしながら、あるテーマに沿って関連付けて、複数の本を紹介する活動です。テーマから様々なジャンルの本に触れることができます。

実践例

「本を紹介する～ブックトークをしよう～」 (令和3年度実践)

実践校／おいらせ町立木ノ下中学校 第3学年

1 活動内容

- (1) ブックトークの説明を聞き、紹介する本を選ぶ準備をする。

ロイロノートに「私の本棚」を作成し、「これまで読んだ本」を入力する。また、「これから読みたい本」の本棚も作成しておく。

※ロイロノート…電子ファイルの本棚を作成し、読んだ本の内容や感想を入力しておくノート。

- (2) 小グループでブックトークを行う。

小グループでテーマ（成長、友情、家族など）を決め、自分が選んだ本とテーマとの関連などについて発表し合う。

学級全体で行うブックトークに向けて、発表の準備をする。

- (3) 学級全体でブックトークを行う。

グループごとに発表する。発表を聞いて、読みたいと思った本をロイロノートに入力する。

- (4) 振り返りシートに記入する（個人）。

これまで読んだ本の傾向や読書量などを分析してワークシートにまとめ、読書生活を可視化して振り返り、今後の読書生活をデザインする。



2 活動の成果

- ロイロノートへの入力は、1年生から記録しておくことができる。また、教科担任だけでなく、学級担任が生徒の読書事情を把握できるという利点もある。図書委員会とのコラボ企画としての活用も期待できる。
- 1の(2)(3)の活動は、お互いが読書ソムリエとして、できる範囲でアドバイスする様子が見られた。話し合いを進めていく中で、テーマからキーワードが生まれたり、新しい視点の発見があったりと宝探しのような時間になった。
- グループ内で持ち寄った本を交換して読むことで、読書量が増えた。
- 活動後、お互いに紹介した本が「これから読みたい本」リストに入り、授業後も読後に感想を伝え合う姿が見られた。

書評合戦（ビブリオバトル）

発表者が読んで面白いと思った本を紹介し、その発表に関する意見交換を行います。全ての発表が終了した後に、どの本がいちばん読みたくなったかを参加者の多数決で選ぶ活動です。ゲーム感覚で楽しみながら本に関心を持つことができます。

実践例

「大平中 3 学年 ビブリオバトル統一王座決定戦」 (令和 2 年度実践)

実践校／むつ市立大平中学校 第 3 学年

1 活動内容

- (1) 参加者は、自分が読んで面白いと思った本を持って集まる。
- (2) 各学級 5 人 1 組のグループを作り、順番に一人 3 分間で本を紹介する。
- (3) それぞれの発表の後に質疑応答の時間を 2 分間取る。
- (4) すべての発表が終了した後に、「一番読みたくなった本」を投票で選ぶ。
- (5) (4) で選ばれた各グループのチャンピオンで再度ビブリオバトルを行い、学級のチャンピオンを選ぶ。本の紹介は学級全員で聞き、投票も学級全員で行う。
- (6) (5) で選ばれた学級のチャンピオンが集まり、学年のチャンピオンを決める。本の紹介は学年全員で聞き、投票も学年全員で行う。

2 活動の成果

- 普段自分が手に取らないような本も、級友の言葉で紹介されることで、親しみを感じられるようになった。実際に、紹介し合った本を貸し借りして読んでいた。
- 自分で本を選ぶ際の観点の幅が広がった。
- ゲーム性があるため、勝つためにより良い紹介をしようとし、より深く作品を読み込むようになった。
- 他者の優れた発表を聞くことにより、プレゼンテーション能力が向上した。



※「ビブリオバトル」は、公式ルールでは一人 5 分間で本を紹介することとしているが、本実践例のように一人 3 分間で本を紹介する「ミニ・ビブリオバトル」もある。

参考：知的書評合戦ビブリオバトル公式サイト <https://www.bibliobattle.jp/>

アニメーション

アニメーションとは、ゲームや遊びを通して読書に親しみ、楽しみながら読解力・表現力・コミュニケーション力を伸ばす読書指導の方法です。

活動例

- 本の内容を理解する活動
「ダウトをさがせ」 読み手がわざと間違えたテキストを読み、聞き手は間違えた箇所を発見したら「ダウト」と言う。
- 登場人物になって考える活動
「この人いたかな」 登場人物のリストを見て、登場した人物を当てる。
「これ、だれのもの」「これ、だれのことば」
お話の中の誰の持ち物か、誰の言葉かを当てる。
- 本の内容を考えながら交流する活動
「クイズでバトル」 物語の内容について問題を考え、答えを出し合う。
「ぼくもわたしも探偵作家」 物語の続きを考え、発表し合う。



アニメーションの原則

- ・本をまるごと1冊扱うこと
- ・必ず本に立ち返ること（単なるクイズに終わらない）
- ・本の紹介を必ず入れること
- ・子どもたちの興味に合わせて活動を組み立てること

図書委員、子ども司書等の活動

子どもが図書委員や子ども司書等となって、図書館や読書活動について学び、お薦め本を選定して紹介したり、同世代の子どもを対象とした読書を広める企画を実施したりする活動です。

● 図書委員

学校図書館の図書の貸出、返却、整理等のほかに、図書館担当教諭等の指導を受けて、児童生徒に学校図書館の理解や利用を促進する活動を行う。ポスターやPOPを作成したり、校内放送等を活用したりして、お薦めの本を紹介する活動等がある。

● 子ども司書

子どもが司書の仕事、図書館の仕組みなどについて学び、他の子どもに読書の楽しさや大切さを伝えるリーダーとして、学校や図書館、地域で活動する取組。青森県内でもいくつかの市町村で、取組が行われている。

一冊の本を「○○賞」として選ぶ活動

子ども同士で複数の同じ本を読み、評価の基準も含めて議論を行った上で、一冊のお薦め本を決める活動です。複数の本を読み込み、共通の本について話し合うことで、自分と異なる視点を知り、自身の幅を広げることにつながります。

【その他の活動】 全校一斉の読書活動（「朝の読書」等）、推薦図書コーナーの設置、卒業までに一定量の読書を目標とする等の活動もあります。



○本リーフレットは、青森県庁ホームページにも掲載しています。

子どもの読書活動推進事業

<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kyoiku/e-shogai/kodomo-dokusho.html>

〒 青森県教育庁生涯学習課 企画振興グループ TEL 017-734-9888

参考文献：「はじめよう学校図書館5 初めての読書指導 アイディア25+5〈小学校編〉」
「はじめよう学校図書館9 読書イベントアイデア集〈中・高校生編〉」全国学校図書館協議会
「読書へのアニメーション 75の作戦」柏書房
「子どもの心に本をどける30のアニメーション」かもがわ出版
「学校図書館活性化マニュアル～できることから始めよう～」青森県教育委員会